



## 平成 29 年の新春を迎えて

一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会 会長  
鈴木 洋 SUZUKI, Hiroshi  
(HOYA 株式会社 取締役 代表執行役 最高経営責任者)

平成 29 年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

当協会の運営および活動に関しまして、平素より多大な御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。昨年の当協会の活動におきましては、技術部会、人材育成事業並びに講演会事業も講師の方々や関係者の方々のお力添えで充実した内容とすることができました。中でも時代のニーズを意識し、技術部会、人材育成事業に新規テーマとして立体映像に関する奥行知覚にまつわる技術、撮像と信号処理を融合させたコンピューショナルイメージング技術、自動運転に関する技術などをテーマとして盛り込み大盛況となりました。今後も新しい視点で企画運営を心がけ充実した事業活動を続けていく所存であります。そのことで、この年頭に皆様には是非お伝えしたいことは、今年は当協会の 30 周年に当たる記念すべき年になります。当協会創立期から今日まで多くの方の御尽力により日本の光学産業、精密産業、電子産業の発展に寄与していただき真に感謝の念に堪えません。草創のころにはオプトメカトロニクスという言葉も馴染みが薄かったとのことですが、今ではすっかり定着し光学・精密・電子の幅広い複合技術があらゆる産業に応用されていると感じ取ることができます。その記念すべき年に、未来へのさらなる発展へと繋がる一つの通過点として創立 30 周年記念行事を計画しておりますことをお伝えしておきます。

さて、近年のオプトメカトロニクス技術は、IoT, VR/AR, 医療、自動運転などの時代の先端をいく技術分野にとって、無くてはならないものとなっており、それらの変革のスピードはとどまることを知りません。当協会草創のころ、オプトメカトロニクス技術はどちらかというと単一の製品に利用されるハード色が強い技術だったのではないかと思います。今日、それはあらゆる分野の技術と結びつき、ネットワークを利用して物や情報が個人、家庭、地域、社会、国家へと限りない複雑な繋がりを持つようになっていこうとしています。今から 30 年後に社会がどのようになっているのか期待せずにはられません。

一方、世の中に目を転ずれば、少子高齢化社会の到来、CO<sub>2</sub> 増加による環境への影響、難民問題や多くのテロ事件など、決して解決が容易ではない問題が山積みとなっています。その中で、多くの問題を克服することに技術というものが少しでも役に立つことがあるのなら、新しい技術に功罪というものが付いて回ることはあるにせよ、人間の知的活動は決して止めてはならないものだと考えます。言い古されたことではありますが、技術は人の幸福のためにあるということ、あらためて日々研究生活を営まれている皆様への提言としたいと思います。

最後になりましたが、平成 29 年が皆様にとって素晴らしい年になりますように、心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも当協会への御支援、御協力をお願いしまして私の挨拶とさせていただきます。